

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年4月28日

【評価実施概要】

事業所番号	0270101744
法人名	アサヒ電器株式会社
事業所名	グループホーム陽だまりの里
所在地 (電話番号)	〒030-0943 青森県青森市幸畑字阿部野163-331 (電話) 017-764-5670

評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成22年3月19日	評価確定日	平成22年4月28日

【情報提供票より】(平成 22年 2月 22日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年 11月 24日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	16 人 常勤 15人, 非常勤 1人, 常勤換算 15.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	9,000~冬期15,000 円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,100 円		

(4) 利用者の概要(2月 22日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	8 名	要介護4	4 名		
要介護5	3 名	要支援2	名		
年齢	平均 84 歳	最低	76 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ファミリークリニック、協立病院、ミナトヤ歯科
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

リビングの窓からはリンゴ畑が広がり、眺めの良い空間で心地よく過ごす事ができる。リビング内にはソファや椅子が多く設置され、食卓他にも小さいテーブルがあり、さりげなく雑誌を置く等、ゆったり過ごせるよう配慮されている。2年前より、公文の学習療法を取り入れており、利用者に対して無理強いせず、希望する方に対して実施している。学習療法を実施する際は、事務室に学習塾のように机を設置し集中出来るよう工夫している。利用者は楽しそうに問題を解き、職員との会話が弾んでいた。学習療法が生きがいとなっている利用者もいる。利用者だけではなく、職員のコミュニケーション能力のアップにも役立っている。また、接遇面では、職員は温かい笑顔と相手を敬った声掛けで利用者へ接しており好感が持てる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	市町村との連携は、管理者が積極的に関わる事で協力体制が整っている。職員を育てる取り組みは、外部研修の復命書を記入し他の職員へ報告する体制を導入している。現状に即した介護計画の見直しは、カンファレンスの内容を記録し残している。プライバシーの確保の徹底は、職員会議でどのようなケアがプライバシーを損ねるのか話し合い利用者の尊厳を守るよう取り組まれている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員会議で、評価の意義を理解できるよう「取り組みを期待したい項目」について話し合い、改善に向けて取り組んでいる。自己評価は、職員が分担し内容を検討し、管理者がまとめて作成している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	家族が集まる行事がある日に開催し、全利用者の家族が、年1回は出席できるように配慮している。欠席するメンバーもいるが、2カ月に1回開催出来ている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10,11)
	ホームへの不満・苦情・意見がないか家族が面会時に来た際に、職員が話をしよう努めている。運営推進会議では、家族が気軽に意見を述べる事が出来るよう配慮している。家族からの不満や苦情はないが、積極的に提案をしてくれている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、町内の新年会や夏祭り等の行事に参加している。また、町内会の総会にも参加し、積極的に地域との連携を図っている。近隣に住む家族の協力もあり、地域の方々はホームに対して協力的である。ホームで開催する夏祭りでは、地域の住民から当日使用する椅子を借りたり、会場設定の手伝いをしてもらっている。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとして、理念を明確にするために、理念を見直す機会を設けている。開設当初につくりあげた理念には、「地域」という言葉を用いていないが、基本方針の中に地域との連携に関する記述があり、職員間で十分に認識されているため、あえて理念を変更せずに取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念について職員一人ひとりが振り返って考える事ができるよう、日々の申し送りで話し合われている。ケアプランを作成する際は、理念に沿ってケアが出来ているか再確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	町内会に加入し、町内の新年会や夏祭り等の行事に参加している。また、町内会の総会にも参加し積極的に地域との連携を図っている。近隣に住む家族の協力もあり、地域の方々はホームに対して協力的である。ホームで開催する夏祭りでは、地域の住民から当日使用する椅子を借りたり、会場設定の手伝いをしてもらっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員会議で評価の意義を理解できるよう「取り組みを期待したい項目」について話し合い、改善に向けて取り組んでいる。自己評価は、職員が分担し内容を検討し、管理者がまとめて作成している。		
5	6	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族が集まる行事がある日に開催し、全利用者の家族が年1回は出席できるよう配慮している。欠席するメンバーもいるが、2ヵ月に1回開催出来ている。		
6	7	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームで作成している広報誌を渡し、積極的に情報交換する事で連携を深められるよう努めている。介護保険制度で疑問点があった場合などは、管理者が担当者の協力を得て解決できている。		
7	8	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護について管理者が研修を通して学んだ事を職員に伝えている。対応が必要と思われる利用者については、制度を活用できるよう支援している。実際に権利擁護を利用されている方が1名おり、制度について全職員が理解している。		
8	9	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が外部の研修を受講し、学んだ事を関連法のマニュアルを使用し職員へ伝えている。日々のケアのなかで、具体的にどのようなことが虐待になるのか申し送り時に職員間で話し合っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項の説明を、家族からの疑問点に答えながら丁寧に行っている。体調に変化があった場合の対応の方針を契約時に相談している。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ホームの広報誌と日々の様子を記録した用紙を1ヶ月に1度家族へ送付している。また、家族が面会に来た時に状況を報告している。遠方において面会に来られない家族に対しては、電話で状況報告をしている。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ホームへの不満・苦情・意見がないか、家族が面会に来た際に職員が話しをするよう努めている。運営推進会議では、家族が気軽に意見を述べる事が出来るよう配慮している。家族からの不満や苦情はないが、積極的に提案をしてくれている。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>昨年度は1名の職員が他の事業所へ異動になったが、それ以降は異動はない。利用者が職員と馴染みの関係を築けるよう、異動がないように配慮している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が職員一人ひとりと面談し、希望する研修・必要だと思われる研修を把握し、外部の研修へ参加している。研修に行った職員は復命書を記入し、他の職員へ研修の内容を伝えている。内部での研修がなかったため、研修の計画書を作成し実施する予定である。		内部研修の計画書を作成し実施する予定があるとのことなので、今後の取り組みに期待したい。
14	18	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームの管理者同士の交流があり、情報交換している。地域の同業者の交流会に参加する等積極的に交流する機会を持ち、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居が決まった利用者と家族には、事前にホームを見学してもらい、居室・ホーム内の雰囲気や構造を見て納得したうえで利用してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は日々のケアの中で、利用者の立場になって考えることを心掛けている。利用者から学ぶ姿勢で食事の作り方を聞く等、生きがいや役割を持って生活出来るよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々のケアの中での様子や家族からの情報を基に、利用者が何を求めているのか把握するよう努めている。カンファレンスや申し送りでケアの方針を統一し、本人の意向に沿ったサービスの提供を目指し取り組んでいる。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人が楽しく暮らしていくための課題を明確化するため、家族と本人の意向を踏まえセンター方式を使用しアセスメントしている。アセスメント実施後に全職員でカンファレンスを行い介護計画を作成している。</p>		
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の期間を6ヵ月に設定し、終了前にカンファレンスを行い見直しをしている。状態が変化した場合は、随時見直ししている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者や家族から、急な外出の要望があっても柔軟に対応している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他に、本人や家族が希望するかかりつけ医へ受診出来るよう支援している。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	早期から家族の意向を確認し、希望があれば看取りまで対応している。状態が変化した都度、家族に意向を確認し医師と相談し方針を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員会議で日々の対応が利用者の尊厳と権利を守れているか話し合い確認している。利用者の前で記録する事はプライバシーを損ねるため、事務室で記入し保管している。		
24	49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居時に家族から生活歴や生活習慣の情報を収集し、その人らしいペースで暮らせるよう配慮している。散歩や趣味の活動等利用者の希望する時間に職員が合わせて対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者がキッチンに自由に入出入り出来るようになっている。食事の準備や片付けを利用者と職員が行っている。職員が利用者の中に入り一緒に食事をし、さりげなく見守り・支援を行い、会話をしながら食事を楽しんでいる。		
26	54	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴の他にも希望があれば対応している。浴槽も広いので、2人で入浴したいと利用者からの希望があり、複数人での入浴を楽しんでもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や洗濯物たたみ等をお願いし、役割を持って暮らせるよう支援している。2年前から公文の学習療法を取り入れており、希望する利用者を対象に取り組んでいる。		
28	58	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候が良い日は、散歩やドライブに出掛けている。なるべく外出の機会を多くとるように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常のケアの中で、どんな事が身体拘束になりうるのかを職員会議や申し送り時に話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム内は鍵をかけずにどこでも自由に行き来できるようになっている。落ち着きがなく帰宅願望がある利用者に対しては、散歩をしたり見守りを強化することで対応している。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年2回実施している。地域の住民も実際に訓練に参加してもらい、災害時の協力を依頼している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人の有料老人ホームの栄養士が栄養のバランスを考慮し作成した献立を基に、季節の食材や収穫した野菜等を取り入れアレンジしている。食事摂取量を細かく記録し、必要な摂取量を維持できるよう努めている。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成し、手洗い・うがいを徹底している。全職員と利用者は家族に同意を得てインフルエンザの予防接種を受けてもらっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>					
<p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビング内は明るく清潔感がある空間で、ソファーや椅子が所々に置かれており、利用者はゆったりと過ごしている。陽が入り込んで眩しい時は、職員がさりげなくカーテンを閉めて心地よく過ごせるよう配慮している。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自分らしい部屋で居心地よく過ごせるよう、一人ひとり好みを聞き装飾している。また、使い慣れた家具を持ちこめる事を入居時に説明し、馴染みのある空間で暮らせるよう配慮している。</p>		

 は、重点項目。